連載

遠距離介護から見えてくる子ごころ親ごころ

――パオッコ活動現場より⑧

NPO法人パオッコ　～離れて暮らす親のケアを考える会～　太田差惠子

この連載の初回にご紹介したパオッコサロン。月に1回、本郷三丁目（東京）の事務局で開いています（日程はウェブサイトで告知）。毎回10人くらいが集まり、情報交換。こういう会合は、同じメンバーに固定しがちですが、パオッコの場合、さまざまな方が入れ替わり来てくださいます。

２０１１年の最初のサロンは、8人でした。親ごさんのお住まいは、福岡、香川、大阪、岐阜、北海道など全国に渡っていました。最初に盛り上がったテーマは「交通費」。

遠距離介護の場合、最大の悩みとなることが少なくありません。

例えば、福岡に親がいるという女性を例にしましょう。東京と福岡の往復は、飛行機代だけで６万６８００円（往復割引。時期や時間帯によって異なります）。現在、親に介護が必要となったため、航空会社に「介護割引」を申請中とのことです。「介護割引」とは航空各社が実施しているサービスです。ＡＮＡの場合の利用条件は「要介護または要支援認定された方の『二親等以内の親族の方』と『配偶者の兄弟姉妹の配偶者』ならびに『子の配偶者の父母』に限り利用可能」となっています。つまり、介護保険で支援や介護が必要と認められている親元への帰省は対象となるわけです。

このサービスを利用すると、６万６８００円が４万７９００円になります。この金額を見ても、通常は「たいして安くない」と思うかもしれません。なるほど、45日前までに予約すれば、往復２万６２００円という料金設定もあります。

遠距離介護する方たちにとって、いつもここは悩みどころです。「介護割引」は、予約変更が可能な点が大きな魅力。「いくら安くても、45日も前から予定をつけることなんてできない」と言う声が多いのです。自分の予定だけではありません。相手は支援や介護を要する親なので、いつなんどき体調が変わるともしれません。急に帰省しなければならない事態も起こります。「介護割引」は、席さえ空いていたら当日でも予約できます。

そういえば、「介護割引」が誕生する前、フルタイム勤務で、やはり親が九州に住まう女性にインタビューしたことがあります。「仕事の都合で、ぎりぎりまで予定を決めることなんてできません」。それで、いつも「往復割引」のみの利用でした。

今回のサロンの参加者にも、「帰省は『介護割引』に決めている」という方がおられました。「早期予約割引は魅力だけど、『いつも、いつも』予約してなきゃいけなくなる。飛行機に乗るために生きているような暮らしになってしまう」と発言。確かに、月イチで帰省する場合、45日前に予約を入れようとすれば、「次の帰省」の前に「次々回の帰省」予約を行うことになります。その発言を聞きながら、「そうよ。私なんて、いつも『飛行機の予約』のことばかり考えて生活しているわ」という女性がいました。

安さを取るか、スケジュール調整のしやすさをとるか。期間が決まっていれば、調整のしやすさ重視でも頑張れるかもしれませんが、介護はいったい何年続くかわかりません。

遠距離介護にかかる「交通費」は航空運賃のほかにもあります。飛行場までの費用もばかになりません。

都心では公共交通機関が発達していますが、問題は実家のほうです。田舎にいくほど、交通は不便です。

福岡に親ごさんがいる方は、空港から実家まで往復タクシー利用とのこと。片道３５００円、往復だと７０００円です。四国が実家という方は片道３０００円。岐阜が実家という方も同じく片道３０００円。北海道の方は、鉄道利用だけれど、駅からはタクシーとのこと。「そのタクシー代は１０００円くらいですけど、実家から病院や施設にいくのは全部タクシー」。そうなのです。遠距離介護でかかってくる交通費は自宅と実家の往復の旅費だけではないのです。滞在中もタクシー利用になることが往々にしてあります。

公共のバスは1時間に1本とか、日中は2～3時間に1本とかってことも。しかも「日曜日は休み」というところも珍しくないそうです。四国が実家という方が言いました。「スーパーマーケットのレジの横に、タクシー会社の電話番号が貼ってある」と。スーパーで買い物をしてタクシーを呼ぶ、ということが通常なのですね。

しかし日曜日はタクシーが来ないケースもあるとか。「そりゃあ、タクシーの運転手もお休みを取るでしょ。平日の駅前はタクシーが列を作っているけれど」。説得力のある言葉にうなずくしかありませんでした。

いろんな地域でコミュニティバスができています。しかし、それはごく一部のこと。珍しいからこそ、報道されるのでしょう。あったとしても、そのラインから外れたところに暮らしていると、タクシーを利用せざるをえません。

とはいっても、タクシー料金はかさみます。通っていく子だけでなく、そこで暮らしている親本人にとって重大な課題です。タクシーに乗ってまでして、病院に行ったり買い物に行ったりできる人と、できない人がいます。経済的にはできたとしても、「もったいない」と思う人もいるでしょう。

誰かが言いました。交通の不便な土地では、「基本はガマンよ」と。多少のことは、買い物でも病気でも我慢する…。

都会に暮らしていると気づかないことがいっぱいあります。故郷の親も元気なうちは車を運転するでしょうし、それほど不都合を感じていないかもしれません。けれども一旦体調が崩れると、大きな問題となります。交通費をどう捻出するか。実は、親ごさんが負担しているケースも少なくありません。実際、出せる人が出さなければまわっていきません。いまの高齢者には、年金が充実している方もけっこういます。反面、無年金のような状態で、子が仕送りしているケースもありますが。仕送り＋交通費を負担できる子世代は多くはないのが実情でしょう。

前号でご紹介した昨年11月に実施した「遠距離介護準備セミナー」の資料として作成した冊子についてプレゼント企画を実施（発送手数料２５０円要）したところ、都心部だけではなく、全国各地からお申し込みがきています。いまや〝離れて暮らす〟は全国的な課題といっていいでしょう。

NPO法人パオッコ
～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。

パオッコは「ひとりの経験はきっとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください！

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-37-8
本郷春木町ビル 9F インキュベーションハウス内
ホームページ　http://paokko.org